

# デザインを通じた周防大島町のハワイ化計画に関する実践的研究 —周防大島町・山口県立大学・周防大島高校の連携による共同研究—

Practical Research on the Plan to Promote Hawaiian Culture Through Design in Suo-Oshima Town  
— Joint Research in Collaboration with Suo-Oshima Town, Yamaguchi Prefectural University, and Suo-Oshima High School —

水谷由美子・松尾量子・山口光\* 小橋圭介\*\*  
Yumiko Mizutani\*, Ryoko Matsuo\*, Hikaru Yamaguchi\*, Keisuke Kohashi\*\*

山口県立大学教授\* 同准教授\*\*

\*Professor of Yamaguchi Prefectural University \*\*Associate Professor of Yamaguchi Prefectural University

## 要 旨

周防大島町・山口県立大学・周防大島高校の3者が包括的連携協力に関する協定が2021年4月28日に締結された。この最初のプロジェクトは、研究代表、水谷に依頼された受託研究「周防大島高校アロハ・プロジェクト2021」である。このプロジェクトをきっかけとして、デザインを通じた周防大島町のハワイ化計画に関する共同研究が実施された。

本論ではなぜハワイ化計画なのか、アロハシャツとは何かについて検討している。また、デザインによる実践的研究として、アロハシャツ作成のワークショップやファッションショーおよびオンラインによるデザイン交流についてその成果を検証している。そこから今後の課題を見出し、ハワイ化を通じて周防大島町のブランディングに貢献することを目的にした。

## Summary:

Suo-Oshima Town, Yamaguchi Prefectural University, and Suo-Oshima High School signed an agreement of comprehensive cooperation on April 28, 2021. Professor Mizutani was asked to be the representative researcher to begin the “Suo-Oshima High School Aloha Project 2021.” With this project as the starting point, a joint collaboration was carried out on the promotion of Hawaiian culture through design in Suo-Oshima Town.

This paper will investigate the Hawaiian culture promotion plan with particular focus on aloha shirts. In addition, as a practical study of design, it will verify the results of the workshops on making Hawaiian shirts, the fashion show, and the design exchanges which took place online. Finally, future challenges were identified for the purpose of contributing to the branding of Suo-Oshima Town through Hawaiian culture promotion.

- I 研究概要
- II なぜハワイ化計画なのか
- III アロハシャツとは
- IV 高校生を対象としたアロハシャツのワークショップ
- V 周防大島町・周防大島高校と共創するファッションショー
- VI オンラインによるデザイン交流と実践
- VII 成果と今後の課題

## I 研究概要

周防大島町・山口県立大学・周防大島高校の3者によって包括的連携協力に関する協定が2021年4月28日に締結された。研究代表の水谷は前年度から受託研究を依頼されており、周防大島高校の生徒が特別な時に着用するアロハシャツをデザインする「周防大島高校アロハ・プロジェクト2021」が提携の最初の共同研究として立ち上げられた。

そこで、大学内でも共同研究をして周防大島町のブランディングに貢献したいと考え、山口県立大学の研究創作助成事業の「大地共創研究枠」で、本研究タイトルに直接関わる「周防大島町ハワイ化計画」を企画した。メンバーは文化創造学科の4名の教員と英語による教育プログラムの開発に関する研究として国際文化学科の1名の教員である。本論は、デザイン領域の研究活動を主に取り上げたものである。

共同研究を円滑にするためには、地域の課題の理解や人的交流が基盤として重要である。研究代表者は自ら実行委員長を務めるブルー&グリーンアートプロジェクト実行委員会及び山口県立大学国際文化学部主催の企画を同時に立ち上げていた。内容はビーチクリーンとシンポジウム「海の豊かさを周防大島における近未来の生活デザインに活かす ～SDGsから白木半島地区の可能性を探る～」(資料1)である。

そこで、柳居俊学山口県議会議長の紹介で白木半島地区コミュニティ協議会(新山玄雄 会長、西村一樹 事務局担当)を尋ねた。白木半島地区の地家室に周防大島町の自然の宝物であるニホンアワサンゴに関する情報を得た。訪問時の会合にはその専門家で地家室園地活用推進協議会の藤本正明委員も同席していた。

こうしたいくつかのものの計画が同時進行で動いたことで、地域の魅力やデザインソースなどが見えてきた。また、人の繋がりもできて、大地共創の基盤が徐々に出来上がった。

本論のテーマは、周防大島町のハワイ化計画であるが、その中の主要な研究対象はアロハシャツのデザインである。特に「アロハ・プロジェクト2021」で制作することになるアロハシャツの柄のデザインに地家室のニホンアワサンゴが関わってくる。

研究代表の水谷は、本学の研究チームと周防大島町側の担当者である総務部政策企画課地域振興班の

末武良治主幹と周防大島高校、大田真一郎校長とを繋ぎながら、共同プロジェクトを進めた。

大田校長と末武主幹そして筆者がかなめとなり、ハワイ化計画の複数のプロジェクトがスムーズに進行した。研究やフィールドワークでは、藤本正明と西村一樹の協力を得た。

このように、大地共創というある意味壮大な計画を、縁の少ない地域で展開するにあたり、複数のプロジェクトを同時に進行させることで、一機に地域のキーパーソンとの人間関係が形成されて、スムーズにものごと動いたことは幸いであった。

そこで、山口県立大学側是水谷由美子が研究統括をし、同時に周防大島高校の生徒を対象としたアロハシャツのワークショップの企画プロデュースを担当し、松尾量子が制作指導を行なった。山口光と小橋圭介がオンラインによるデザイン交流と実践を行なった。

水谷は「周防大島高等学校 アロハ・プロジェクト2021」の創作研究とファッションショーを実施したので、それらを含めて本論を記すことにする。

以下には研究進行のスケジュールから実施した内容について述べる。

- (1) 5月31日 2021年度 周防大島高校×周防大島町×山口県立大学 アロハプロジェクトとして、周防大島高校の生徒を対象としてレクチャー「アロハシャツ～歴史・文化・デザイン～」とワークショップを実施。高校生32名参加。
- (2) 8月6日 研究メンバーで周防大島町のフィールドワーク。
- (3) 8月17日 山口県立大学で周防大島高校の生徒を対象としたアロハシャツのワークショップ実施。
- (4) 9月22日 周防大島高校でファッションショーのリハーサルと地家室海上からニホンアワサンゴのリサーチ。
- (5) 10月8日 周防大島高校体育館で「アロハ・プロジェクト2021」ファッションショー「ファッションショーで綴るアロハシャツの歴史・文化・デザイン」(資料2)を実施。
- (6) 巡回展「アロハ・プロジェクト2021」
  - 大島庁舎内 1階 ロビー 11月22日～11月30日
  - 久賀庁舎内 1階 ロビー 12月1日～12月10日
  - 周防大島文化交流センターロビー 12月11日～12月20日
  - 橋総合センター内 1階 ロビー 12月21日～12月27日オンラインによるデザイン交流と実践の詳細なス

ケジュールは、本論に記されているので、ここでは割愛する。

本研究では、ハワイ化計画のためのデザイン研究を通じて、県内外から入学している周防大島高校の生徒や周防大島町民に、アロハシャツの歴史や文化を理解し体験する機会を提供し、改めて周防大島の魅力を再発見することを目的とした。

そのために、周防大島高校生を対象とする講演とワークショップそしてファッションショーを開催した。また、町民にはアイ・キャンケーブルテレビの放映を通じてファッションショーを見る機会を提供した。さらに、上記スケジュールにあるように周防大島町主催の巡回展が開催された。本論は以上のプロジェクトを検証し、その結果と成果を通じて、今後の課題などをさらに明らかにすることを目的としている。

## II なぜハワイ化計画なのか

周防大島町のブランディングを考えた時に、現在、「瀬戸内のハワイ」というキャッチコピーがあるが、どのようにハワイとの関わりがあるのか。日本のハワイへの移民の歴史は明治元年（1868年）に始まる。国が認めた官約移民は明治14年（1881年）に始まった。この時に、山口県からハワイへ移民したのは、全国の約3割であり、その中の多くが周防大島の住民であった。移民した人々は契約の3年で帰国した者、そのままハワイにとどまったもの、またアメリカ本土に移住した者などがいた。

移民が終わってからも私的な交流はあったが、1963年（昭和38年）6月22日に4町長（東和町、久賀町、橘町、大島町）の合意の元、大島郡がハワイ州カウアイ島と姉妹島提携を締結したことで、公の交流が始まった。詳しくは土井彌太郎の『山口県周防大島郡 ハワイ移民史』の「カウアイ島と姉妹縁組」（注1）を参考にしてほしい。その後、文化、スポーツ、産業面からの交流が長年、継続されてきた。

周防大島町は4町が合併してできた若い町である。合併する前に、アロハシャツ着用を町民に推進する政策があった。このきっかけは日本人ハワイ官約移民100年祭がハワイ州オアフ島にて行なわれたことに起因している。以下では柳居俊学山口県議会議長へのインタビューを参考に考察をする。

当時、周防大島町とハワイとの交流は低迷してい

た。そこで、当時、東和町長をしていた柳居が250名程の大島郡の人々（東和町民を多く含む）を伴って、上記100年祭の行事に参加した。常陸宮正仁親王は、この祭典のみならず周防大島町との姉妹島提携を結んでいるカウアイ島へも同行され、カウアイ島の日系人にとっても大きな盛り上がりとなった。

柳居東和町長は帰国後に平和やアロハの精神そして移民の歴史などの視点において、大島郡とハワイとの交流を言葉だけでなく視覚的に普及させるにはどうしたらよいかと考えた。

かつて、宮本常一先生から環太平洋に関することを調べるなら、オアフ島にあるビショップ博物館に行くように勧められた。そこでビショップ博物館を訪問し、シノトウ教授から移民の歴史とアロハシャツの関係を知り、アロハシャツがキーになると考えた。

そこで、旧東和町と旧久賀町は昭和61年（1986年）に、旧橘町は平成3年（1991年）そして旧大島町は平成5年（1993年）から推進が始まり、現在は公益財団法人山口県大島郡国際文化協会（通称アロハ文化協会、会長 椎木 巧）によりアロハシャツ着用のキャンペーンが推進されてきた。

現在の周防大島町では、町役場、郵便局、銀行、各種組合など公共性の高い場所からアロハシャツが普及した。そして、今年からはスーパーマーケットの店員や周防大島高校の教員へと拡大され、アロハキャンペーンは新たな盛り上がりを迎えつつある。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、おもてなしの趣が強い「アロハキャンペーン」という名称ではなく、クールビズの一環として「アロハ・ビズ2021」（注2）と題して、アロハシャツ着用の推進が取り組まれた。

2021年度にハワイ州と山口県の姉妹提携が各議会で認められており、2022年の夏に日系人のハワイ州知事デビッド・ユタカ・イゲ（日本名 伊芸 豊 1957年生まれ）が山口県を訪問し、調印が行なわれる計画になっている。その後、アロハシャツの普及は全県に広がる可能性がある。山口県とハワイ州との歴史文化が改めて認識され、アロハシャツを通じて新たな交流の頁が開かれようとしている。

また、ハワイ文化を代表するフラダンスを県内外のグループに発表の場を提供する「サタフラ」（注3）が実施されている。サタフラは一般社団法人周防大島観光協会が主催し、公募する形で多くのグループ

を集めている。発表の場所は、道の駅サザンセトとうわ、グリーンステイながうら、ホテルサンシャインサザンセトそして竜崎温泉の4箇所である。筆者は数年前に2箇所でコンサートとフラダンスの公演を見る機会があった。植生による南国のイメージ作りやレストラン、そして食べ物だけでなく、ハワイの芸術文化に触れることができるよい機会であった。

サタフラを主催している一般社団法人周防大島観光協会提供の数値では、2019年は約140チーム、4000人、2020年はコロナのために中止、2021年は約30チーム、1000名程度のフラ愛好家が来島している。週末ごとにサタフラに出演するために全国から多数の人が来ており、交流人口の増加にいかん貢献しているかが理解できる。また、周防大島高校にもフラダンスのチームがあり、上記の舞台でも活躍をしている。若者がこうした地域の活動に参加することは、高齢化した島に若い元気をもたらず好機ではないかと考える。

上記のように行政や諸機関の活動を通じて、周防大島町のハワイ化はすでに一定の形をなしており、広く認知されつつある。1994年に山口に筆者が赴任した頃の大島郡は日本一高齢化が進んでいる島で、高齢者が元気だというイメージだけが先行していた。

アロハシャツによるおもてなしの心の表現とフラダンスを通じた交流の場作りがあるが、若者の参加はそれほど多くはない。そこで、周防大島高校の生徒や山口県立大学の学生とともに、デザインで周防大島町のハワイ化を表現することから、地域活性化に貢献できるのではないかとという仮説のもとで、活動を行った。また、ファッションショーをハワイ州カウアイ島に発信することで、デザインを通じた国際交流を具体化することも目指した。

### Ⅲ アロハシャツとは

アロハシャツに関する研究は研究者のほかに、ビジネス関係者や愛好者まで多様な人々によって研究がされている。アロハシャツの詳細な研究は別のところで検討したい。ここでは、アロハシャツの概要を記すにとどめる。現在、アロハシャツの源流はパラカと考えられている。パラカはヨーロッパの船員の服装であった青と白のチェック柄の長袖の開襟シャツが、農作業着として日系人たちに採用されたと考えられている。

20世紀初め頃、サトウキビ畑での仕事で財をなし

た多くの人が、オアフ島のホノルルに来て仕立屋や呉服屋を営んでいた。

記録に残るアロハシャツの呼び名は、仕立屋「ムサシ・ショウテン」が1935年に新聞記事に「アロハシャツ」の広告を掲載したことが最初である。ムサシヤ・ショウテンが、最も早く和柄の生地を使ったシャツを仕立てた。

アロハシャツの商標登録は1936年に中国系移民エラリー・チャンによって登録され、その最初のアロハシャツはムサシヤ・ショウテンで仕立てられた。ムサシヤ・ショウテンは官約移民（1885年～1894年）の一人である、宮本長太郎により1904年に創業された。その息子の孝一郎が着物地のシャツを広めホノルルで最も有名なシャツ店になった。最も、着物地だけでなく、キング・カメハメハのモチーフをはじめ、ハワイのオリジナル柄のアロハシャツも作られていた。

和柄の生地は日本から輸出された友禅柄の広幅の生地が使用された。戦時中を除き、アロハシャツの聡明期から最盛期を支えた重要なテキスタイル産地は大阪や京都であった。

1927年にサンフランシスコとホノルル間の客船周航などにより、ハワイが観光地となる。また、戦時中の米軍の要衝になったことと戦後の観光客の増加により土産としてアロハシャツへの需要が高まり、1950年代が人気の絶頂期となった。

ここで簡単に絵柄の推移を見ておこう。1930年代は柄が全体に広がっている「オールオーバー・パターン」が主流である。その柄は徐々に大きくなっていく。1940年代後半には縦に大胆な縞柄（ストライプではなく草花によるボーダ柄）がある「ボーダー・パターン」が多くなってくる。1950年代のアロハシャツの最盛期は裾線を水平にした絵画的な「ホリゾンタル・パターン」が流行する。この流行にのって米国本土でも背中に大胆な柄がある「バックパネル・パターン」や写真を編集してプリントした「ピクチャープリント」など、インパクトが強いデザインの柄が作られるようになった。

柄のデザインの特徴は、ハワイの自然や文化に着想をえたトロピカル柄、ミックスカルチャーの象徴である和柄、さらにデザイナー（ジョージ・メンクスなど）による個性的な柄、ハワイを代表するデューク・カハナモク（先住ハワイ人の血をひくオリンピック金メダリスト）のブランドの柄をはじめ

有名なアロハシャツ・ブランドの特定の柄などがある。

生地は主にコットンから始まり絶頂期はレーヨンであったが、1960年代にポリエステル製のアロハシャツの出現によりレーヨン製が姿を消した。現在はクールビズやレジャー推進の流れの中で、レーヨン、シルク、コットン、ポリコットン、ポリエステルなど多様な生地のアロハシャツが作られている。

1950年代にアロハシャツの人気を全米に広めるきっかけとなったのは、エルヴィス・プレスリー主演「ブルーハワイ」などの映画がある。日本では1950年代から1960年代にかけて、加山雄三主演の映画「ハワイの若大将」などの影響や観光からハワイのイメージは移住先から観光の島へと変わっていった。

現在では、アロハシャツはハワイを象徴する文化の一つとして世界中に知られている。

日本ではクールビズの浸透の中で、仕事着としてまた夏のレジャーウエアとして、継続的な人気がある。

#### IV 高校生を対象としたアロハシャツワークショップ

山口県立大学において、周防大島高校の生徒を対象としたアロハシャツの制作ワークショップが企画された。本ワークショップは、高校生が自分の手でアロハシャツを制作することにより、アロハシャツへの理解を深めるとともに、自分の手で衣服を作り上げるというプロセスを体験することを目的としている。また、高校生と大学生が1名ずつペアを組んで、制作に取り組むという、高大接続の要素を含んだ試みである。

ワークショップ全体の企画は水谷が行い、制作に関する具体的な指導は松尾が担当した。当日は、周防大島高校の生徒6名（3年生2名、2年生4名）が参加し、山口県立大学の学生6名（学部3年生5名、大学院生1名）が指導役として参加した。

##### 1 ワークショップ実施に向けた事前準備

###### (1) 素材の選定

今回のワークショップは、「アロハ・プロジェクト」の関連事業としての実施であり、10月9日に周防大島高校で開催されるファッションショーにおいて発表することが予定されていた。そのた

め、作品を通して、アロハシャツへの理解を深めることができるよう、素材としては、アロハシャツらしさを視覚的に伝える6種類のテキスタイルを選択した。プリント地については、ボーダー・パターン、水平線・パターンを1種類ずつ、オールオーバー・パターンを2種類選んだ。オールオーバー・パターンのうち、1種類はリバースプリント（裏地使い）とした。また独特の風合いをもつレーヨン素材のものを1種類選択した。背面を一つの画面とするバックパネル・パターンについては、水谷のプロデュースにより、周防大島の岡本染工場（写真1）の協力を得て、周防大島高等学校の男子生徒がオリジナルの生地を制作した。



写真1 岡本染色工場にて  
染色指導 岡本勝也

###### (2) パターン（型紙）

アロハシャツのパターン（型紙）は、山口県立大学大学院修了生である有限会社ナルナセバの下川まつゑチーフデザイナーに作成を依頼し、LMSの3サイズのパターンを用意した。8月6日（金）に、事前打ち合わせを兼ねて、本研究チームのメンバーが周防大島高校を訪問した際に、アロハシャツのサンプルの試着により、各自のサイズの確認を行った。

###### (3) 縫製手順の確認と裁断および印付け

今回のワークショップは、朝10時から夕方4時までという限られた時間の中で実施するため、

ワークショップに先立ち、大学側で、布地の裁断や印付け、芯張り等の準備を行った(写真2)。この作業は、ワークショップで指導役を務める学生に対する事前指導を兼ねたもので、当日配布する資料に基づき、当日の流れや指導のポイントについて確認した。



写真2 裁断作業

「プロジェクト」のプレゼンテーションが行われるなど、盛りだくさんの一日となり、予定の時間までに完成には至らなかったが、アロハシャツを羽織って、記念写真を撮る光景が見られ、衣服作りを通じた高大接続プログラムの試行としては一定の成果があったと思われる(写真4,5,6)。



写真4 ワークショップの様子1

## 2 ワークショップ

ワークショップは、2021年8月20日(金)10時から17時まで、山口県立大学3号館2階C203教室において行われた。

ワークショップをスムーズに行うため、当日は9時から準備を行い、机の上には、縫製手順書、裁断・印付けの終わった布地、裁縫道具、ミシンを並べ、すぐに縫製作業に入れる状況を用意して高校生の到着を待った。ワークショップでは、最初に水谷が企画の趣旨を説明し、次いで松尾が縫製手順書により、説明を行った後、指導役の大学生がリードする形で作業を開始した。

高校生にとっては、慣れない作業の連続であったが、大学生との協働という形が功を奏し、和気藹々とした中で、次第にアロハシャツの形が作られていった。昼食休憩を挟んで午後は、衿付け、そでつけなどに取り組んだ。15時からは「アロハ・プロ



写真5 ワークショップの様子2



写真3 ワークショップの開始



写真6 ワークショップの様子3

## V ファッションショーと巡回展について

周防大島高校アロハ・プロジェクト実行委員会が主催で、テーマ「ファッションショーで綴るアロハシャツの歴史・文化・デザイン」のファッションショーが、周防大島高校の体育館で2021年10月9日に開催された。コロナ禍であったので、観客は周防大島高校の全生徒と教員、及びオープンハイスクールに来ていた中学生とその保護者であった。町民を招くことができなかつたことは残念だったが、地元ケーブルテレビのアイ・キャンが後に放映をしたので、町民にも発信された。

以下ではファッションショーの趣旨、構成そして作品内容について記す。

### 1 開催趣旨

周防大島町には日本ハワイ移民資料館があり、移民の歴史の資料や全国の移民に関して検索できるデータベースがある。ファッションショーの研究創作チームは、このリサーチからアロハシャツの研究を開始した。

筆者が取り組んでいるSDGsにコミットした活動は、海や山を一連のものとしてとらえており、デザインを通じて地域文化の発展に貢献することを基本にしている。そこで、周防大島の海に関して注目すべきものに「ニホンアワサング」があることを知り、なぎさ水族館でのリサーチに加え地家室の海に漕ぎ出してアワサングの生態を観察した。なぎさ水族館は世界ではじめてニホンアワサングの水槽での孵化に成功させたことで有名である。地家室沖の海には全国でもっともニホンアワサングが生育している場所として認知されている。

これらを踏まえつつ、周防大島町と周防大島高校との協働で、アロハシャツに関する理解・デザイン・制作に関するワークショップを上記高校で開催した。

生徒たちから周防大島のイメージについてのキーワードを抽出したところ、みかん、海、そして色は青色などが共通して出された。また、周防大島高校ではニホンアワサングの指導を専門家から受けた後、生徒の願望がきっかけとなり、高校でニホンアワサングが水槽で育てられるようになった。

上記のワークショップや高校の取組みを大切に考えながら、今回のファッションショーを構成した。アロハシャツのパターンを紹介するパートでは前章

で述べたように、周防大島高校の生徒6名が山口県立大学に来て、自分が着る作品を山口県立大学の松尾量子教授の制作指導の元、学生が高校生とペアになって作品制作を行なった。

水谷が指導する企画デザイン研究室+plusの学生は、ビーチクリーン(写真7)や講演会およびフィールドリサーチなどを実施し、そこで着想を得た周防大島のイメージや材料などを用いて作品を制作した。



写真7 ビーチクリーンの様子  
シーボルト上陸の牛ヶ首海岸にて

なお、ファッションショー終了後に、周防大島町主催で、ファッションショーで発表した作品の巡回展が催された。

### 2 作品構成と作品内容

- (1) 「アロハシャツの柄パターンと素材の歴史」6点(写真8-13)

周防大島高校生が制作のアロハシャツで制作者が自らモデルを務めている。

ここでの作品の詳細は前章に記しているののでこちらを参考にして頂きたい。

- (2) 「パラカッコ・ブルー」(写真14)

パラカは3章で述べたように、アロハシャツの源流である。残存する日系人のパラカの写真を参考に、形のパターンを新たに考案し、イタリア製のチェック柄布で制作したものが「パラカッコ」である。有限会社ナルナセバの代表取締役下川まつぶに制作協力を得た。パラカッコはナルナセバと共同研究しているモンペッコシリーズの商品開発の一つとして制作された。

- (3) 「キモノ フレンドリー アロハ」(写真15)

着物生地を用いた松尾量子制作の作品である。パラカやアロハシャツが作成された当初は、日本人移民が日本から持参した着物を解いて作られたという歴史に着目して、松尾が自身の家族の着物を



写真 8

ボーダー・パターン(縦縞)  
 素材：ポリコットン  
 制作・model：来海彩芽  
 制作指導：石田彩夏



写真 9

オールオーバー・パターン(総柄)  
 素材：コットン  
 制作・model：山崎心結  
 制作指導：小坂加奈子



写真 10

リバース・プリント(裏地使い)  
 素材：ポリコットン  
 制作・model：中川亜美  
 制作指導：土井 奏



写真 11

水平柄  
 素材：ポリコットン  
 制作・model：石野妃奈  
 制作指導：津村実奈



写真 12

レイヨン・アロハ  
 素材：レイヨン  
 制作・model：幾原遥子  
 制作指導：田村奈美



写真 13

バックパネル・パターン(背面絵柄)  
 素材：コットン  
 制作・model：宮田拓樹  
 制作指導：甲斐雄大  
 染色指導：岡本染工場



写真 14

パラカッコ・ブルー  
 (inspired by Palaka in Hawaii)  
 デザインディレクション：水谷由美子  
 服飾デザイン・モデリング：下川まつゑ  
 model：鶴田侑大



写真 15

着物フレンドリーアロハ(和柄)  
 素材：浴衣、銘仙着物  
 制作：松尾量子  
 model：飯塚真七龍久/廣渡花音

活用して制作した。

(4) 周防大島からのインスピレーション (写真 16-22)

企画デザイン研究室+plusメンバーは、周防大島で日本ハワイ移民資料館、シーボルト上陸で名高い牛ヶ首海岸でのビーチクリーン、宮本常一記

念館、地家室の海岸からのニホンアワサングの調査、ミカン畑の探索などのフィールドワークを実施した。

上記のフィールドワークからそれぞれの学生が着想を得て、みかんの皮、海藻などを用いた自然染色、ステンシルなどの染色技法や刺繍、スパンコー



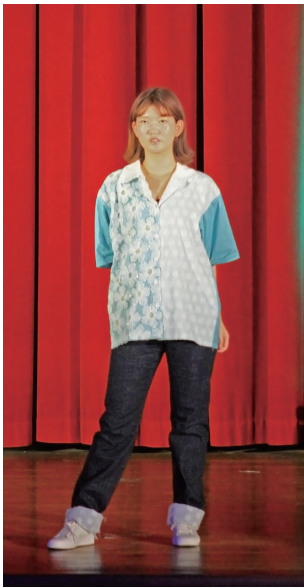


写真 16

Refreshing

concept: みかんの花で彩る周防大島の休日  
 製作者: 水早杏菜・吉松花梨  
 model: 吉岡桃菜



写真 17

Shining Oshima

concept: 周防大島の輝く海とみかんの島  
 製作者: 津村実奈  
 model: 福原玲奈



写真 18

Goldfish, Suo-Oshima

concept: 金魚とみかんの島  
 製作者: 甲斐雄大  
 model: 竹田智也



写真 19

Seawave

concept: 周防大島の波と海の植物  
 製作者: 土井奏  
 model: 栗村淳



写真 20 Kai mālie

concept: 周防大島の穏やかな海とアワサング  
 製作者: 石田彩夏  
 model: 河原好花



写真 21 Circulation

concept: 周防大島の自然と宝庫  
 製作者: 小坂加奈子  
 model: 澤田美羽



写真 22 Vitamin Color

concept: 草木染めで描くフレッシュなみかんの島  
 製作者: 田村奈美  
 model: 田村菜々未



写真 23 海と陸の結婚

デザイン: 水谷由美子  
 コ・クリエイト: 田村未奈美  
 テキスタイルデザイン: 山本成美  
 model: 山村涼太・加藤瑞葉

ルなどの装飾技法などを駆使し、オリジナルの生地を制作し、アロハシャツに仕立てた。

(5) 海と陸の結婚

海と陸を繋がったものとして開発することの重要性を表現した男女ベアーの作品(写真23)である。周防大島が誇るニホンアワサングの夏の赤い

姿と緑色に輝く冬の姿を撮影した写真を加工してモチーフをテキスタイルにデザインして、制作した。

全体デザインは水谷がディレクションをし、テキスタイルデザインは山本成美が担当し、服飾デザインは田村未奈美が担当した。

(6) 周防大島高校のためのオリジナルアロハ開発

周防大島高校の生徒がハワイへ修学旅行に出かける時を中心に、特別な催がある時に着用するための制服を、水谷に受託研究として制作が依頼された。

研究概要のスケジュールで示しているように、講演会やワークショップを開き、生徒たちから周防大島町のイメージを収集した。

そこで、生徒から出たキーワード、青色、海、ミカン、そしてニホンアワサンゴを取り込んだデザインを考えた。型紙は男女両用のために、男女別々のボディにシーチング見本を着せながら、ちょうどいい型を考案し、MサイズからグレーディングしてS、L、LLの型紙を制作した。

パターンデザインは、最も美しい冬のニホンアワサンゴの写真を元に、オールオーバー・パターンに展開した。すると、不思議な幾何学模様になった。数種類の提案の中から、1パターンを選んだ。このベースに、みかんの花が浮いているようなイメージで配置した。当初はベースが緑色になったが、もう一色、青色のベースのパターンも制作した。

青色にしたのは、生徒の周防大島のイメージで選んだ色であること。そして。制服とはいえ、1色の制服で多くの生徒が並んでいると個性が感じられなくなることを配慮して、2種類を提案して、

大田校長に賛同を得た。実際に作品を（写真24）見た後で、大田校長はこの選択が良かったと納得された。

(7) 「宮本常一スタイルアロハ」

宮本常一は、周防大島町出身の民俗学者で、地域創生の走りと言えるほど、地域の海や陸に関する振興に貢献した人物である。周防大島町立宮本常一記念館があり、その偉業が顕彰されている。

宮本は歩く哲人とも形容されるほど、日本全国を自分の足で歩いてフィールドワークをした。宮本を写したフィールドワーク中の写真の1枚に、胸と腰の部分にそれぞれ2つずつのポケットがあるシャツを着ている姿があった（写真25）。現在のアロハシャツは左胸に1つのポケットが多い。労働着からおしゃれ着へと用途が広がって、ポケットも象徴的なものになりつつある。そこで、作業着、仕事着であったシャツの歴史を要素として入れ込んだデザインをした。宮本常一へのオマージュでもある（写真26）。

(8) 「法被アロハ」（写真27～29）

これは藤本浄孝 周防大島町長と初めてプロジェクトの打ち合わせをした時に、町長が希望されたので、制作アイテムとして取り上げたものだ。

デザインは周防大島高校の生徒用にデザインした緑と青の生地を用いて、身頃の部分と襟の部分をそれぞれ緑と青を逆転させて作成した。ショー



写真 24 周防大島高校のためのオリジナルアロハ  
デザイン：水谷由美子 画像加工：小橋圭介  
制作協力：有限会社ナルナセバ(下川まつゑ)、匠山泊

では、藤本町長、大田校長そして水谷がフィナーレの中で着用し、発表した。

町長などが地域をアピールするシーンで、いいタイミングでさっと着られて、すぐ脱げる。また、コンパクトに畳んでカバンに入れておくことができる。法被の融通無碍な機能を再確認することができた。



写真 25 宮本常一

### 3 アロハシャツの巡回展開催について

今回は新型コロナウイルス感染症への配慮として、一般の町民の参加はできなかった。しかしながら、アイ・キャンケーブルテレビの周防大島チャンネルで放映された。その後、YouTubeでも配信されているので、町民がファッションショーを見ることは



写真 26 宮本常一スタイルアロハ  
デザイン：水谷由美子  
モデリング：下川まつゑ(有限会社ナルナセバ)



写真27・28 法被アロハ  
(上)グリーン・(下)ブルー



写真29 フィナーレにて法被アロハの発表  
デザイン：水谷由美子  
制作協力：有限会社ナルナセバ(下川まつゑ)  
左から 新山玄雄、大田真一郎、水谷由美子、藤本浄孝、椎木巧

可能であった。

しかし、メディアを通して見るのと実際に作品を見るのでは印象が異なる。周防大島町の末武良治主幹の努力により、大島庁舎（写真30-33）、久賀庁舎、周防大島文化センター、橋総合センターの4カ所で展覧会が開催された。これらの場所は日常的



写真 30 大島庁舎内 1階ロビー



写真 31 久賀庁舎内 1階ロビー



写真 32 周防大島文化交流センター ロビー



写真 33 橋総合センター内 1階ロビー

に町民の往来がある場所のために、多くの観客が得られた。

12月の開催のために、アロハシャツは季節を先取りしたものであった。観客の感想では、「キャプションがあり、現物を見るとアロハシャツについての理解が深まった」「新型コロナウイルス禍で人々の気持ちが暗くなっているなかで、工夫をして華やかな展覧会をしてくれてよかった」、「ワークショップの作品には馴染みの柄もあり親しみを感じる、オリジナルアロハシャツの華やかな柄もいいね」「暗い冬に明るい華やかなアロハシャツを見ると気分がアップしていいね」「販売はしないのですか」などの反応があったと末武から報告を受けた。

## Ⅵ オンラインによるデザイン交流と実践

### 1 研究概要

郷土の振興とブランディングのためには「体験」は不可欠なものである。これは経済的な活動としても、あるいは文化的な啓蒙・教育活動としても重要である。これからのウィズコロナ・アフターコロナの時代を見据えた、遠隔地間で体験を共有することを目的として、オンラインにおける「デザイン制作体験」について可能性を探る研究を行なった。

対象となった周防大島高校は、自然に恵まれた島々から成る山口県大島郡周防大島町に所在している。交通の便が限られている離島であることもあり、オンラインの有効性が高い地域だと考えられる。

今回は同校の美術部の生徒を対象に課外活動行い、山口県立大学デザイン創造コースの教員2名が指導を行うことで、実践的な研究を行なっている。課題は「周防大島を題材としたグッズ計画」とした。

### 2 デザイン制作体験の概要と経過

周防大島高校との交流は、基本的にZOOMを活用して行なっている。大学と高校の連携事業でもあるため、挨拶を兼ねて1度だけ先方に訪問し、この際にデザインチェックなどを行なった。課題の内容とスケジュールを列挙する。

#### (1) 課題の内容

テーマ：周防大島町のお土産品となるグッズのデザイン

条件：大学で保有する機器を活用したマグカップとエコバッグのデザイン

制作方法：周防大島高校からデザイン案（アナロ

グ)を貰い、山口県立大学で試作

(2) オンライン授業

日時：9月10日(金) 16:10~18:00

場所：ZOOM

参加者：周防大島高等学校 森本有美教諭、同高校 美術部生徒他計7名、山口光教授、小橋圭介准教授

オンライン授業を実施し、活動内容の説明及び作品の表現手法について説明した。

(3) デザインチェック

日時：9月22日(水) 16:10~18:30

場所：周防大島高等学校

参加者：周防大島高等学校 森本有美教諭、同高校美術部生徒他計7名、山口光教授、小橋圭介准教授

オンライン授業にて説明した課題について、生徒たちが中間報告をした(写真34-35)。作品について適宜アドバイスを行い、10月上旬を目処に原画を本学まで郵送するように依頼した。



写真 34 周防大島高校での対面指導1



写真 35 周防大島高校での対面指導2

(4) 原画制作 (写真36-38)

制作期間：9月10日(金)~10月15日(金)

参加者：周防大島高等学校 美術部生徒他計7名  
周防大島高等学校の生徒7名が、マグカップ(6

点)、エコバッグ(3点)の原画を制作した。細かい修正点などは、教員間によるメールで伝達し、内容の修正を生徒が対応した。

(5) 制作

日時：10月21日(木)、28日(木)、11月11日(木) 16:10~17:10

場所：山口県立大学

参加者：山口光教授、小橋圭介准教授

生徒の制作した原画をもとに「マグカップ」と「エコバッグ」の試作を行った。

完成作品については周防大島高等学校へ11月22日に郵送した。

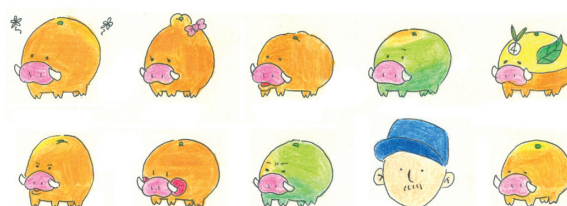


写真 36 高校生が描いたマグカップの原画1



写真 37 高校生が描いたマグカップの原画2



写真 38 高校生が描いたマグカップの原画3

(6) 講評会1 (写真39-43)

日時：12月17日(金) 16:15~17:00

場所：ZOOM

参加者：周防大島高等学校 森本有美教諭、同高校 美術部生徒他計6名、山口光教授、小橋圭介准教授

完成作品に対する生徒の感想を聞き、本学教員からも適宜講評を行なった。講評会の結果、4点ほど作品を修正することになった。今後の流れとしては、完成作品を「地域デザイン展」(2月4日~2月6日、文化創造学科アトリエ内)で展示した。(写真44、45)



写真 39 周防大島高校でのオンライン受講 1



写真 40 周防大島でのオンライン受講 2



写真 41 周防大島高校でのオンライン指導 3



写真 42 山口県立大学でのオンライン指導 1



写真 43 山口県立大学でのオンライン指導 2



写真44 マグカップ制作風景



写真45 展示風景

## (7) 講評会 2

日時： 2月4日(金) 16:15~17:00

場所：ZOOM

参加者：周防大島高等学校 森本有美教諭、同高校 美術部生徒他計6名、山口光教授、小橋圭介准教授

前回の講評を元にデザインの修正を行い、完成作品に対する生徒の感想を聞き、本学教員からも適宜講評をおこなった。

## 3 成果と課題

オンラインを通じたデザイン交流と実践について、地域ブランディングを視野に、周防大島町のグッズ開発を課題とした「デザイン制作体験」を行なった。周防大島高校の美術部の生徒を対象に、オンラインでの交流と指導を通じて、試作品を完成させている。いくつかの作品は、今後が期待できる仕上がりとなっている。

また作品の成果のみならず、オンラインによる指導や評価についての可能性など、コロナ禍における指導方法の実験が行われた。指導が難しくなっていた「制作体験」をオンラインで実現できたことが、何よりも成果であると思われる。

一方で課題としては、やはり現地での仲介役が必要だということである。今回は周防大島高校の先生

と協働であったために、サポートが得られたことが、スムーズに指導ができた大きな成果であった。とはいえ、生徒たちへの指導がオンラインでも可能であることが伺えた。

対面での交流の基盤を前提とするが、距離を克服して、山口県立大学が周防大島のブランディングに貢献する可能性があることが示された。

## VIII 共同研究の成果と今後の課題

以上で、デザインを通じた周防大島町のハワイ化計画の実践的研究のために、服飾デザイン領域では、山口県立大学の学生と周防大島高校の生徒とともに、そしてグラフィックデザインとプロダクトデザインの領域で、周防大島高校の生徒を対象に、共同研究を実施した。

周防大島町と周防大島高校の関係者が、大きなサポートとともに主体的な協働をしたことで、大きな成果が得られた。特にアロハシャツを通じたハワイ化はファッションショーのケーブルテレビアイ・キャンの放映やYouTubeを通じた発信と周防大島町4地区での展覧会の実施により、地域市民が研究内容に触れることができた。

カウアイ島にあるコミュニティカレッジから、山口県人会などの関連団体に映像が発信された。ファッションショーでは日本語と逐次訳で英語によるナレーションを行なった。この理由はカウアイ島の人々が聴衆として前提にされていたためである。その結果、若い学生や生徒たちが、カウアイ島（ハワイ）と周防大島（日本）の交流の歴史やアロハシャツを通じた文化交流などに参加したことに感動したという声が周防大島町を通じて届いた。学生や生徒たちも、アロハシャツの歴史、文化理解から、周防大島町の魅力の奥行きを感じたと感想を述べており、一定の成果が得られたと考えられる。

また、「アロハ・プロジェクト」による周防大島高校の生徒のためのアロハシャツのデザインについて、周防大島町や周防大島高校の生徒から個性的、周防大島らしいモチーフ、かわいいというコメントがあった。また、周防大島町でも製造したいという申出もあり、デザインが受け入れられたことが理解される。

周防大島町発のフラダンスグループの衣装や夏のオシャレ着のための提案として、ロング丈とショート丈のムームー2着をデザインし、YAMAGUCHI×

ROVANIEMI DESIGN WEEK2021（KDDI維新ホール、山口市）におけるファッションショー「クリスマスクリエーション2021」にてタイトル「ムームー 地域の宝もの」（写真46）として発表した。服飾デザインの分野から今後も周防大島町に貢献して行きたいと考える。



写真 46 ムームー  
デザイン 水谷由美子 モデリング 下川まつゑ

オンラインを通じたデザイン交流では、地域ブランディングを視野に、周防大島町のグッズ開発を行なった。ここでは出来上がってくる作品の成果のみならず、オンラインによる指導や評価についての可能性など、コロナ禍における指導方法の実験が行われた。周防大島高校の先生と協働であったために、大きなサポートが得られたことは事実だが、生徒たちへの指導がオンラインでも十分可能であることが実証された。

山口県立大学と周防大島町は車で約1時間（高速道路使用）、周防大島高校は約1時間半の距離がある。共同研究を実施するためには、この距離をどのように乗り越えるかが課題である。しかし、オンライン交流が容易になった今日、新たな可能性が以上のように見出せた。対面での交流の基盤を前提とす

るが、距離を克服して、山口県立大学が周防大島のブランディングに貢献する可能性があることが明らかとなった。

以上のように、いくつかのプロジェクトを実施して、周防大島町と周防大島高校そして山口県立大学の共同研究の基盤が築かれた。今後、高校生や周防大島町の各機関とのデザインを通じたデザイン交流が多様に展開され、周防大島町のブランディングに貢献されることを期待したい。

謝辞：上記の共同研究を実施するにあたり、藤本浄孝周防大島町長を初め周防大島町企画課の末武良治主幹、周防大島高校大田真一郎校長をはじめ諸先生、ニホンアワサングの世界へ導入頂いた白木半島地区コミュニティ協議会の新山玄雄会長、事務局の西村一樹（周防大島町企画政策課主幹）、藤本正明（山口県東部海域エコツーリズムを推進する会 会長）、上記協議会との交流に貢献した河村邦彦山口県立大学前事務局長に深くお礼を申し上げます。

また、最後にニホンアワサングとの出会い、周防大島町のキーパーソンとの出会い、宮本常一先生の情報提供、初期の周防大島町への導入、周防大島町とカウアイ島およびアロハシャツ着用の推進に関する情報提供など多大なご指導を頂いた山口県議会、柳居俊学議長に心からお礼を申し上げます。

最後に、紙面の都合上すべてのお名前は記せませんが、多くの方々にご協力及びご支援を頂きました。この場をお借りして皆様に心から感謝の気持ちとお礼を申し上げます。

## 注

- 1 土井彌太郎 「カウアイ島と姉妹縁組」 『山口県周防大島郡 ハワイ移民史』 マツノ書店、1980年、179-191頁。
- 2 アロハ・ビズ「周防大島町」 [https://www.town.suo-oshima.lg.jp/seisakukikaku/20210622\\_1.html](https://www.town.suo-oshima.lg.jp/seisakukikaku/20210622_1.html) 2021年12月19日取得。
- 3 サタフラ2021「スオウオオシマドットコム」 [http://www.suouoshima.com/event/sata\\_hula.html](http://www.suouoshima.com/event/sata_hula.html) 2021年12月20日取得。

## 参考文献

- 秋元利一 『VINTAGE ALOHA BOOK ヴィンテージ・アロハのすべて』 CLASSIX MEDIA、2016年。
- 「近代日本移民の歴史」編集委員会 『ビジュアル版 近代日本移民の歴史 北アメリカ～ハワイ・西海岸』 汐文社、2016年。
- P.F.コーブランド 濱田雅子訳 『図説 初期アメリカの職業と仕事着 植民地時代～独立革命期』 悠書館、2016年。
- 小林亨一 『ヴィンテージアロハシャツブック LAND OF ALOHA』 朝日新聞社、2010年。
- 堀雅昭 『ハワイに渡った海賊たち 周防大島の移民史』 弦書房、2007年。
- Desoto Broun・Linda Arthur共著 矢口祐人・砂田恵理加 共訳 『アロハシャツの魅力』 ワニブックス、2005年。
- 辻原康夫 『服飾の歴史をたどる世界地図』 河出書房新社、2003年。
- デール・ホープ グレゴリー・トジアン 小林令子 訳 『THE ALOHA SHIRT ハワイのスピリット、アロハシャツのすべて』 デザインエクステンジ、2003年。
- 今井今朝春 『AROHASHIRT THE TRUE STORY アロハシャツの真実』 ワールドフォトプレス、2001年。
- 土井彌太郎 『山口県周防大島郡 ハワイ移民史』 マツノ書店、1980年。
- Allan Seiden, "The HAWAIIAN Monarchy", Mutual Publishing, 2004.
- Mark Blackburn, "HAWAIIANA The Best of Hawaiian Design", Schiffer, 2001.
- Nancy N.Schiffer, "Hawaiian shirt designs", Schiffer, 1997.

## 参考URL

- 元年者と官約移民「ハワイ観光局アロハプログラム」 <https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/189>
- 資料探検隊 Vol.1 [http://www.jomm.jp/newsletter/tayori01\\_02.html](http://www.jomm.jp/newsletter/tayori01_02.html)
- 海外移住資料館 第1号（2005年9月）  
[https://kataokayoshio.com/blog170106\\_aloha\\_shirt](https://kataokayoshio.com/blog170106_aloha_shirt)



片岡義男.com 「ホノルルのムサシヤ・ショーテン」

<http://www.pacificresorts.com/webkawaraban/special/080717/>

近藤純夫 「ハワイアンシャツの歴史（1）」

<http://www.sunsurf.jp/shirt/history.html>

Aloha Shirts History（アロハシャツの起源と歴史）<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate02/blog/20150903-1.html>

「沖縄古着屋CYCLONE」 沖縄県那覇市牧志2-19-26 1F <http://cyclones.ti-da.net/>

「Marvin's Vintage」 東京都渋谷区神宮前6-12-15 [www.marvins.jp.com](http://www.marvins.jp.com)

「Pagong」 [www.pagong-netshop.jp](http://www.pagong-netshop.jp)

### 写真撮影者リスト及び写真提供

写真1,5~7 水谷由美子

写真2,3,4 松尾量子

写真8~23,29 磯谷勝也

写真24,26~28 下川まつゑ

写真25 株式会社芳賀ライブラリー 所蔵

写真30~33 末武良治 提供

写真34~41 周防大島高等学校教員 提供

写真42~45 小橋圭介

写真46 鴨瀬克己


資料1

ブルー&グリーン アートプロジェクト 2021 in 周防大島町  
ビーチクリーン&シンポジウム

海の豊かさを周防大島における  
近未来の生活デザインに活かす  
～ SDGs から白木半島地区の可能性を探る ～

2021年6月27日(日) 11:00～15:30

■本事業の様子は8月上旬にYouTubeにて配信。ブルー&グリーンアートプロジェクトで検索。■



|                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| <b>ビーチクリーン</b>               | <b>シンポジウム</b>                   |
| 場所 周防大島町西方地内<br>シーボルト上陸地 牛ヶ首 | 場所 橘総合センター集会室<br>周防大島町西安下圧445-2 |
| 時間 11:00～11:45               | 時間 14:00～15:30                  |

主催：ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会 / 山口県立大学国際文化学部  
後援：周防大島町  
協力団体：白木半島地区コミュニティ協議会 / 山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会 / 山口県立周防大島高校

## ブルー&グリーン アートプロジェクト2021 in 周防大島町 ビーチクリーン&シンポジウム

### ■開催主旨

ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会はSDGsにコミットし、地域の課題発見・解決を目指した活動をするために、2020年度に設立されました。その研究創作および企画・運営などは主に安倍昭恵夫人と山口県立大学国際文化学部企画デザイン研究室との共同研究として行なわれています。特に自然環境、文化・芸術などのフィールドで、海と陸を繋げた開発を目標としています。

周防大島町南東沖の海域には、日本最大規模のニホンアワサンゴの群生地があり、地元関係団体を中心に陸と海の繋がりを重視したアワサンゴの保全活動等が積極的に行なわれています。当実行委員会でも昨年山口県内の地域で守るべき美しい自然の1つとして「ニホンアワサンゴ」に注目し、地家室の海岸やなぎさ水族館でのフィールドワークを経て、服飾作品を制作しました。今後、ニホンアワサンゴがますます繁茂することと周防大島町のブランディングに役立つために、今回は白木半島地区コミュニティ協議会の協力を得て、ビーチクリーンとシンポジウムを開催します。前者では、プラスチックゴミ、シーグラス、海藻などを採取し、デザインやアートの共創について考えていきます。

また、後者では周防大島町の自然や歴史・文化、および近未来に向けて目指される開発の方向性について、高校生や地域発展を願うすべてのステークホルダーと共有し、周防大島町の近未来の生活デザインの創造に活かしていきたいと思っております。皆様、本日はフロアーからも活発なご意見をお願いします。

最後になりましたが、本日の事業を実現するために、ここで一人ずつお名前を挙げることはできませんが、ご指導、ご協力を得ました多くの皆様に心よりお礼を申し上げます。

(ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会 実行委員長 水谷由美子)

### ■ビーチクリーン

場所：シーボルト上陸地付近の海岸

時間：11:00～11:45

海洋プラスチックゴミの清掃活動を通じて漂着ゴミの実態等を把握

- ・商品加工されない海藻の再利用としての海藻染めの可能性を探る
- ・シーグラスによる周防大島の工芸デザインの可能性を探る

### ■シンポジウム

テーマ

『海の豊かさを周防大島における近未来の生活デザインに活かす～SDGsから白木半島地区の可能性を探る～』

#### ■あいさつ

主催者 水谷 由美子 (ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会実行委員長)

来賓 柳居 俊学 (山口県議会議長)

#### ■基調公演

演題 「大切にしたい～白木半島の暮らし・自然・文化・歴史～」

講師 新山玄雄 (白木半島地区コミュニティ協議会会長)

白木半島はかつて海上交通の要衝として栄え、貴重な史跡が数多くある。また、ハワイ移民をはじめとする海外移民を数多く輩出した地としても有名である。沖家室は農水省により「未来に残すべき漁村百選」にも選ばれた。その白木半島の沖合に国内最大規模のニホンアワサンゴの群生地が見つかり、その保全と活用についての取り組みが始まった。私たちの目指す「白木半島の暮らし、自然、文化、歴史」に根差した地域づくり、それは今や世界共通の課題、SDGsとのつながり、その現況と課題について話をする。

## ■ パネルディスカッション

コーディネーター 水谷 由美子 (ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会実行委員長)  
コメンテーター 安倍 昭恵 (ブルー&グリーン アートプロジェクト名誉顧問・共同研究者)

## ■ パネリスト

新山 玄雄 (白木半島地区コミュニティ協議会会長)

『白木半島地区の地域振興』

白木半島の沖合に国内最大規模のニホンアワサンゴの群生地が見つかり、その保全と活用についての取り組みが始まった。この白木半島に新たな人を呼び込むために、これから整備されるニホンアワサンゴの園地施設をこの地域の拠点施設として置づけ、自然をはじめ、地域の歴史や文化を織り交ぜながら交流していきたい。また、沖家室島はハワイに多くの移民を輩出しており、移民が始まって100年以上、現在でもその交流は続いている。

藤本 正明 (山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会会長)

『アベマキが育むアワサンゴの海』

「森は海の恋人」、周防大島南東沖の海域の森は、アベマキの森だ。かつてこの海域には豊かな藻場が形成されており、多くの魚たちの住みかとなっていた。その藻場が縮小してしまい、海水温の上昇なども相まってニホンアワサンゴが生息域を急速に広げていったのではないかと推測される。当然、昔のような豊かな藻場の海にすべきとの声も多くあるが、海の環境は簡単に戻ることができるものではなく、アワサンゴがいるこの海を守り、様々な活動を通じて地域の振興につなげていくことが大変重要。

内田 博陽 (なぎさ水族館学芸員)

『島の小さな水族館が取り組むべきこと』

平成27年4月、「ここでしか見られない! 0歳・1歳・2歳の赤ちゃんサンゴ」と題して、アワサンゴの特別展を開催した。「海の花束」とも呼ばれるアワサンゴの幻想的な姿に、来館者から感嘆の声が上がり、“よし”と思わず拳を握った。今後もアワサンゴをはじめとした海洋生物を見て・触れてもらう様々な企画を練り上げ、地域に愛される水族館にしたい。また、地家室に整備されるエコツーリズムの拠点施設との連携も模索したい。

藤本 浄孝 (周防大島町長)

『白木半島の資源を活用した地域振興』

地家室園地拠点施設を整備し、ダイビングやシュノーケリングなどによるニホンアワサンゴの観察、300m級の山々のトレッキングなどの活動拠点としたい。

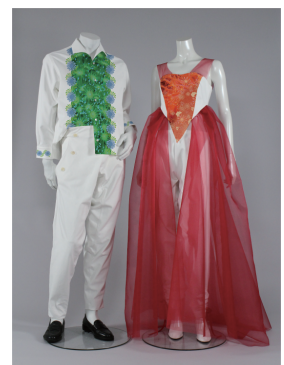
やまぐち元気生活圏の制度を活用し、白木半島の地域振興を展開し、地域の元気創出を図っている。

本年4月、山口県立大学・周防大島高校・周防大島町の3者連携協定を締結し、プロジェクトの第1弾として水谷先生にご協力をいただき、「アロハシャツプロジェクト」を展開している。

## ■ 展示作品

「海と陸の結婚」

ブルー&グリーン アートプロジェクト 2020 のタイトルであった「海と陸の結婚」を象徴的に表現するために制作した作品。ニホンアワサンゴが四季折々に姿を変えることを知り、その生態と変化する姿や色彩に興味を持ち、テキスタイルのデザインを行った。男性の上着は冬に見られる緑色の姿、そして女性のドレスは産卵を控えた赤い姿に着想を得て、写真からアレンジし、パターンデザインを行った。男性の上着はアロハシャツに寄せた形式で、パンツは東北地方で伝統的に野良や山仕事で着用されていたサルッパカマとセーリングパンツのディテールを融合させた。女性のパンツはサルッパカマの形式をモダンにアレンジした。周防大島の陸と海が繋がって豊かなライフスタイルが創造されることを祈ってデザインされたカジュアルなウエディングスタイルである。



クリエイティブディレクター 水谷 由美子  
コ・クリエイター 田村 未奈美  
テキスタイルデザイン 山本 成美  
写真提供 藤本 正明

## ■プロフィール

### 安倍 昭恵（ブルー&グリーン アートプロジェクト名誉顧問・共同研究者）



聖心女子学院幼稚園から高等学校卒業。聖心女子専門学校英語科卒業。立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科修了。株式会社電通新聞局を経て、1987 年安倍晋三氏と結婚。立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科趣味は、ランニング、ゴルフ、お茶作り。2006 年から山口県立大学企画デザイン研究室と共同開発を開始し、2013 年からファッション創造による農業振興および地域活性化の活動を継続的に実施している。2018 年から山口県立大学大学院国際文化学研究科非常勤講師。

### 新山 玄雄（白木半島地区コミュニティ協議会会長）



泊清寺 住職。  
山口県立安下庄高校を卒業し大学進学のため一時島を離れるが、昭和 50 年沖家室島に戻る。以降、泊清寺の住職となり町議会議員、周防大島町社会福祉協議会会長、大島保護区保護司会会長、白木半島地区コミュニティ協議会会長等数々の要職を務める。  
周防大島町出身の民俗学者宮本常一先生が創設した郷土大学の役員となり、現在、NPO 法人周防大島郷土大学理事長を務め、地域の歴史や文化の振興活動にも尽力。

### 藤本 正明（山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会会長）



自然公園指導員（環境省委嘱）山口県環境学習推進協議会委員。  
NPO 法人自然と釣りのネットワーク理事 地家室園地活用推進協議会委員。  
平成 25 年 2 月に瀬戸内海国立公園では初となる「海域公園地区」の指定に関わり、現在も海域の保全活動に携わる。ニホンアワサングの利活用にも取り組んでおり、中でも、自然・歴史・文化などの地域資源を活用したエコツアーの開催に力を注ぐ。

### 内田 博陽（なぎさ水族館学芸員）



平成 28 年に日本初の飼育下でのニホンアワサングの繁殖に成功。  
最近では様々な形をもつ魚の稚魚や甲殻類の幼生にも興味を抱き、周防大島の魚類リストを作成中。  
島の小さな「なぎさ水族館」を、地域に愛され、どうしたら地域の発展につなげていけるのか、日々奮闘中。  
また、出張水族館などの企画も手がける。

### 藤本 浄孝（周防大島町長）



平成 21 年に周防大島町西屋代の西蓮寺副住職、翌年、中（なか）保育園園長就任。平成 28 年には周防大島町町議会議員選挙に立候補し初当選。  
令和 2 年 22 月、第 3 代周防大島町長に就任し、「人と自然が響きあう、笑顔あふれる安心のまち、周防大島～私たちの、たのしい、すみたい、いきたい島～」を将来像に掲げ、周防大島町の新たなまちづくりの取り組みをスタートさせた。

### 水谷 由美子（ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会実行委員長）



ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会委員長。三重県生まれ。お茶の水女子大学大学院修了。ヘルシンキ芸術デザイン大学（現アールト大学）客員教授。山口の地域資源を活かし、服飾デザインを通して、地域のブランディングや商品開発について産学公連携による研究創作及びフィンランドのラップランド大学やハワイ大学マウイカレッジと共同研究を行う。また、サービスデザイン手法を取り入れ、サステナブルなデザインアプローチを行う。

グラフィックデザイン：山本成美、田村奈美

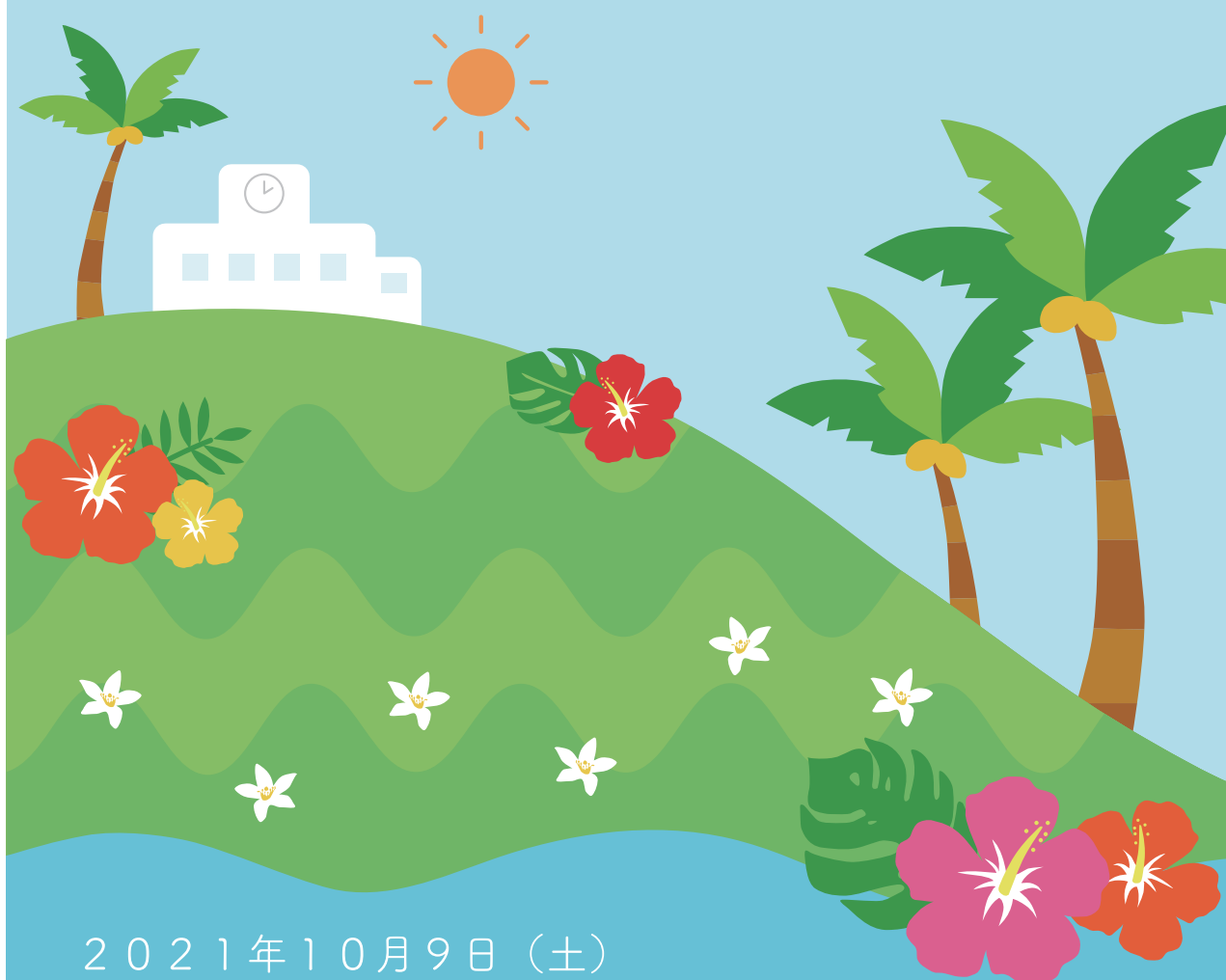
## ■問い合わせ先

ブルー&グリーン アートプロジェクト実行委員会事務局 山口県立大学国際文化学部事務室内 担当 水谷  
〒753-0021 山口県山口市桜島 6-2-1  
Tel : 083-929-6258 Mail : 2021blueandgreenartproject@gmail.com

資料2

周防大島町 × 山口県立周防大島高等学校 × 山口県立大学  
ファッションショーで綴るアロハシャツの歴史・文化・デザイン

「アロハ・プロジェクト 2021」ファッションショー



2021年10月9日（土）

11:30 - 12:00

会場：山口県立周防大島高等学校 体育館

- 主催・企画・運営  
周防大島高校アロハ・プロジェクト実行委員会
- 共催  
周防大島町 / 山口県立周防大島高等学校 / 山口県立大学
- 協働  
山口県立大学 研究創作助成事業「周防大島町ハワイ化計画」グループ

## 1. ご挨拶

### 主催



#### 藤本 浄孝（周防大島町長 / 周防大島高校アロハ・プロジェクト実行委員長）

今年4月に周防大島町・山口県立大学・山口県立周防大島高等学校の三者で地域の活性化や相互の発展を目指す包括的連携協定を締結しました。

この取り組みの一環として、移民の歴史やハワイ州カウアイ島との交流という周防大島の特性を活かして作られたアロハシャツ等の作品をお披露目し、交流活動に新たなページを加える「アロハ・プロジェクト2021」ファッションショーを開催いたします。

独創的な周防大島高校のアロハシャツをはじめ、周防大島の歴史や文化、自然をモチーフとした作品をお楽しみください。



#### 大田 真一郎（山口県立周防大島高等学校 校長）

「公大高包括連携協力の協定」における最初の事業として取組を進めてまいりました「アロハ・プロジェクト」が、本日のファッションショーをもって完結することになりました。長期間にわたりアロハシャツ制作に携わっていただいた山口県立大学の水谷教授、さらには多大な御支援を賜りました周防大島町の藤本町長様をはじめ多くの関係者の皆様方に対しまして、心から感謝申し上げます。

今後、完成したオリジナルアロハシャツを、様々な教育活動の場面で生徒たちが披露することで、本校の魅力をこれまで以上に高め、地域に貢献してまいりたいと考えますので、これからも引き続き御声援と御支援のほどよろしくお願いします。



#### 水谷 由美子（山口県立大学国際文化学部長）

大島郡はかつて高齢化日本一というイメージがありましたが、平成16年の4町合併による周防大島町の誕生、移住者の増加や町の活性化の活動、そしてハワイとの交流の積み重ねと進展などにより、みかんの島とともに瀬戸内のハワイという島のイメージが定着されています。その可視化に大きく貢献しているものに、島の人々が仕事着や普段着として夏の間に着用するアロハシャツがあります。

この度、「アロハ・プロジェクト」に参加させて頂き、周防大島町と周防大島高校とのコラボレーションが実現しました。アロハシャツの歴史や文化を高校生とともに学び、周防大島高校生のためのオリジナル・アロハシャツを共創しました。この場をお借りして、ご協力を頂きましたすべての方にお礼を申し上げます。

### 来賓



#### 柳居 俊学（山口県議会議員）

「アロハ・プロジェクト2021」のご盛会をお祝い申し上げます。

このプロジェクトへご尽力いただきました主催者並びに関係各位のお取組に対しまして深く敬意を表します。

私の古里である山口県周防大島は、ハワイ州カウアイ島との姉妹島締結から半世紀を超え交流の輪が広がっています。

この「アロハシャツ」創出を通じた取組が、周防大島の歴史、文化を再認識する機会になるとともに、地域資源に触発されたデザイン開発が島の新たな魅力創出へ繋がることを願っています。

私はこれからも、この島の魅力発信のため、地元の県議会議員として努力を重ねてまいります。

結びに、本ファッションショーが実り多いものとなりますとともに皆様方のご健勝とご多幸を念願いたします。

### 祝辞



#### 繁吉 健志（山口県教育長）

周防大島高校では、「公大高包括連携協力の協定」を締結後、県立大学の水谷教授や学生との交流、意見交換を重ねながら、同校を象徴するようなオリジナルのアロハシャツの制作に取り組んできたところです。

同校では、地域に貢献する人材や起業家精神に満ちた人材の育成に努めるとともに、フラチームを結成し、積極的に地域行事に参加するなど、地元の皆様に笑顔と元気をお届けしてきました。

今後、生徒たちが学校行事等において、完成したシャツを着用することで、これまで以上に地域活性化の一翼を担う存在となることを期待しています。関係された皆様の益々の発展と、「アロハ・プロジェクト」における集大成であるファッションショーの成功を祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 2. 「アロハ・プロジェクト2021」ファッションショー開催に向けて

明治維新に始まり官約移民によって正式なハワイ移民が行なわれました。全国でも周防大島からの移民がもっとも多かったことは周知のことです。周防大島町に日本ハワイ移民資料館があり、私たちのチームはこのリサーチからアロハ・プロジェクトを開始しました。

私たちのデザインポリシーとして、SDGsにコミットして、海や山を一連のものとしてとらえて発展することに貢献することを基本にしています。そこで、周防大島で注目すべきものに「ニホンアワサンゴ」があることを知り、なぎさ水族館でのリサーチに加え地家室の海に漕ぎ出してアワサンゴの生態を観察しました。

これらを踏まえつつ、周防大島町と周防大島高校との協働で、アロハシャツに関する理解・デザイン・制作に関するワークショップを開催しました。

生徒たちから周防大島のイメージについてのキーワードを抽出したところ、みかん、海、そして色は青色などが共通して出されました。また、周防大島高校ではニホンアワサンゴの指導を専門家から受けた後、生徒の願望がきっかけとなり、高校でニホンアワサンゴが水槽で育てられています。

上記のワークショップや高校の取組みを大切に考えながら、今回のファッションショーを構成しました。アロハシャツのパターンを紹介するパートでは、周防大島高校の生徒6名が山口県立大学に来て、自分が着る作品を県大生の指導を得て作成しました。

企画デザイン研究室+plusの学生は指導をするとともに、ビーチクリーンや講演会およびフィールドリサーチなどで着想を得た周防大島のイメージや材料などを用いて作品を制作しました。周防大島発のアロハファッションをゆっくりとお楽しみ下さい。

### 周防大島高校生が活用するアロハシャツのデザイン開発

デザインコンセプト：

生徒が特別な時のグループの制服として着用することが目的です。県内外では周防大島をアピールする手段として機能すること、ハワイに行った時にはハワイ文化に寄り添いながらも、周防大島の自然や文化の魅力が伝えられることが求められます。

ニホンアワサンゴは旧東和町の地家室から沖家室周辺に群生しています。冬の間に見せる緑色の姿がもっとも美しいために、緑色のアワサンゴの写真を活用しました。その写真の一部をグラフィック処理して、ニホンアワサンゴの模様をデザインしました。なお、生徒の意見で出た青色を活かすために、青色ヴァージョンも作成し2種類の色合いを作っています。その模様を海と見立て周防大島高校の校章にも使われているみかんの花が海に浮かんでいるようなイメージでデザインしました。

ボタンは現地でも多く使われているヤシの実の殻を活かしています。サイズはS、M、L、LLの4種類展開です。Sは女性用に作っていますが、それ以外は男女共通です。共用の方は男性服の着方にしない右前に設計しています。

ショーの後、調整をして工場生産をします。皆様の活動の場所でのコミュニケーションに役立てられますと嬉しいです。

写真提供：なぎさ水族館・藤本正明（山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会）

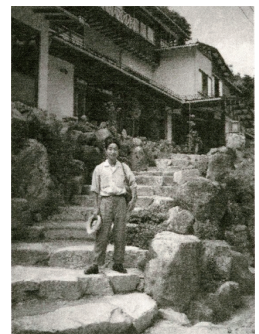


### 宮本常一スタイルアロハ

周防大島町出身の宮本常一は民俗学者のみならず漁業や農業等の分野でのアドバイザーとして、また地域づくりに貢献した人として、地域創生の時代の今、改めて注目されています。今回は宮本常一がフィールドワークで着用していた胸と腰の左右にポケットがあるスタイルに着想を得たアロハシャツを作成しました。アロハシャツはオシャレ着の要素が強いですが、ポケットがいくつもあると機能的な服となります。

### 法被アロハ

日本のお祭りに欠かせない法被は、普段着の上に気軽に羽織ることができます。デザイン開発したアロハシャツの生地で作ってみました。周防大島をアピールする際に着ることを意図しています。



写真所蔵：宮本常一記念館（周防大島文化交流センター）



### 3. プログラム

#### ●挨拶 (11:30 - 11:35)

主催：藤本浄孝 周防大島町長（周防大島高校アロハ・プロジェクト実行委員長）  
来賓：柳居俊学 山口県議会議長

#### ●ファッションショー (11:35 - 11:55)

##### 1. アロハシャツ - 柄パターンの歴史 -

※制作・model 周防大島高校生

ボーダー・パターン（縦縞）  
素材：ポリコットン  
制作・model 来海彩芽  
制作指導：石田彩夏

オールオーバー・パターン（総柄）  
素材：コットン  
制作・model 山崎心結  
制作指導：小坂加奈子

リバースプリント（裏地使い）  
素材：ポリコットン  
制作・model 中川亜美  
制作指導：土井奏

水平パターン（水平柄）  
素材：ポリコットン  
制作・model 石野妃奈  
制作指導：津村実奈

レイオン・アロハ  
素材：レイオン  
制作・model 幾原遥子  
制作指導：田村奈美

バックパネル・パターン（背面絵柄）  
素材：コットン  
制作・model 宮田拓樹  
制作指導：甲斐雄大  
染色指導：岡本染工場

##### 2. palakakko (inspired by palaka in hawaii)

デザインディレクション：水谷由美子  
服飾デザイン・モデリング：下川まつゑ  
model: 鶴田侑大

##### 3. 着物フレンドリーアロハ（和柄）

松尾量子  
model: 飯塚真七龍久 / 廣渡花音

##### 4. 周防大島からのインスピレーション

Refreshing  
concept：みかんの花で彩る周防大島の休日  
水早杏葉・吉松花梨 model：吉岡桃菜

Shining Oshima  
concept：周防大島の輝く海とみかん  
津村実奈 model：福原玲奈

Goldfish, SUO-OOSHIMA  
concept：金魚とみかんの島  
甲斐雄大 model：竹田智也

seawave  
concept：周防大島の波と海の植物  
土井奏 model：栗村淳

Kai mālie  
concept：周防大島の穏やかな海とアワサング  
石田彩夏 model：河原好花

circulation  
concept：周防大島の自然と宝庫  
小坂加奈子 model：澤田美羽

Vitamin Color  
concept：草木染めで描くフレッシュなみかん  
田村奈美 model：田村葉々未

##### 5. 海と陸の結婚

海と陸の結婚  
デザイン：水谷由美子  
コ・クリエイト：田村未奈美 テキスタイルデザイン：山本成美  
model：加藤瑞葉 / 山村涼太

##### 6. 周防大島高校のためのオリジナルアロハ開発

水谷由美子  
制作協力：有限会社ナルナセバ（下川まつゑ）  
model：今井大夢 / 片岡祐希 / 嶺智泉 / 山本百華  
（山口県立周防大島高等学校 教諭）

##### 7. 宮本常一スタイルアロハ

水谷由美子  
制作協力：有限会社ナルナセバ（下川まつゑ）  
model：村山陸人

#### ●フィナーレ (11:55 - 12:00)

法被アロハ  
水谷由美子  
model：藤本浄孝・大田真一郎・水谷由美子

## 4. スタッフ

|               |  |
|---------------|--|
| 総合プロデューズ・演出   | 水谷由美子  |
| 企画・運営         | 周防大島高校アロハ・プロジェクト実行委員会  |
| 服飾デザイン        | 水谷 由美子<br>松尾量子（山口県立大学国際文化学部文化創造学科長 教授）<br>田村奈美（山口県立大学大学院国際文化学研究科 2年）<br>石田彩夏 / 甲斐雄大 / 小坂加奈子 / 津村実奈 / 土井奏<br>（山口県立大学国際文化学部 企画デザイン研究室 + 3年）<br>水早杏菜 / 吉松花梨（山口県立大学国際文化学部 企画デザイン研究室 + 2年）  |
| ヘアメイク・指導      | 西脇末美（山口国際美容文化研究所 所長）   |
| 作曲            | 田村 洋（山口県立大学 名誉教授）  |
| 写真撮影          | 磯谷勝也（磯谷音楽写真芸術事務所）  |
| 映像            | 末岡健一（株式会社 アイ・キャン 制作グループ 主任）  |
| 照明・音響         | 株式会社やの舞台美術   |
| 演出補佐          | 秋元彩花 / 石田彩夏 / 津村実奈 / 土井奏 / 水早杏菜  |
| MC            | 谷村海璃（山口県立大学 エトワール放送局）  |
| MC（英語）        | 吉田フィオナ凜（山口県立周防大島高等学校 1年）   |
| MC 翻訳         | サイフル・バフリ・ナディア・ヌルルファダ・ビンティ（山口県立大学 国際文化学科 3年）  |
| 学生リーダー        | 石田彩夏   |
| グラフィックデザイン    | 津村実奈   |
| 運営スタッフ        | 田村奈美 / 山本成美 / 石田彩夏 / 甲斐雄大 / 小坂加奈子 / 津村実奈 / 土井奏 / 原田裕作  |
| スタッフ          | 水早杏菜 / 吉松花梨 / 志水優大<br>秋元彩花 / 谷村海璃 / 紹廣明日香（山口県立大学 エトワール放送局）   |
| デザイン・制作協力     | 有限会社ナルナセバ / 匠山泊  |
| 素材協力          | 林 栄樹   |
| ワークショップ企画・運営  | 水谷由美子  |
| 第1回ワークショップ参加者 | 平井萌絵 / 宮田拓樹 / 小林凌真 / 村井彩華 / 石野妃奈 / 上杉隼斗 / 塩見理紗<br>（山口県立周防大島高等学校 3年）<br>奥村祐衣 / 中川亜美 / 木口真唯子 / 来海彩芽 / 弥永夏実 / 岡田藍 / 山崎心結<br>（山口県立周防大島高等学校 2年）<br>塩崎惺 / 瀬川逢人 / 中野天詩 / 堀田遊心 / 山本智美 / 吉田フィオナ凜<br>朝長佑真 / 南波星亜 / 彌富綾汰 / 小川侑津起 / 中部海都 / 中村太一樹<br>上野史帆 / 島田歩乃 / 佳善家誠人 / 宮路結愛 / 吉田藍 / 吉野晴香<br>（山口県立周防大島高等学校 1年） |
| 第2回ワークショップ運営  | 松尾量子   |
| 第2回ワークショップ参加者 | 宮田拓樹 / 石野妃奈（山口県立周防大島高等学校 3年）<br>幾原遥子 / 中川亜美 / 来海彩芽 / 山崎心結（山口県立周防大島高等学校 2年）   |
| 染色指導協力        | 岡本染工場（周防大島町）   |
| アロハシャツ制作指導協力  | 廣兼かおり / 嶺智泉 / 山本百華（山口県立周防大島高等学校 教諭）  |

アーカイブ配信（予定）

1. 周防大島町 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/town.suo.oshima>

2. 山口県立大学 YouTube アカウント「Ykendai」  
<https://www.youtube.com/user/Ykendai>





第1回ワークショップ 5/28



日本ハワイ移民資料館見学 5/16



第2回ワークショップ 8/20



周防大島の海中



地家室のニホンアワサンゴの生態観察



周防大島高校 ニホンアワサンゴ水槽



ファッションショー リハーサル

●お問い合わせ先  
山口県立大学国際文化学部事務室内 担当：水谷  
〒753-0021 山口県山口市桜島 6-2-1 Tel：083-929-6258